

令和 3 年 6 月 14 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02350

研究課題名(和文) やさしい日本語を用いた年少の言語的少数者向け総合日本語教材開発のための総合的研究

研究課題名(英文) An interdisciplinary study for the development of integral Japanese textbooks for foreign-rooted children using Yasashii-Nihongo (Easy Japanese)

研究代表者

庵 功雄 (IORI, Isao)

一橋大学・森有礼高等教育国際流動化機構・教授

研究者番号：70283702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果物は次の通りである。1)2冊のJSL(Japanese as a Second Language)生徒向け総合日本語教科書刊行、2)中学校教科書コーパス分析結果を踏まえ、長単位相当語彙を実装した「形態素解析ウェブアプリUniDic-MeCab中学校教科書まとめ表現登録版」の本科研HP上での公開、3)非漢字圏学習者の漢字の字形認識に関する研究の公開、4)日本手話引き日本語基本語辞典のインターフェイス開発。公開シンポジウムを2回開催し成果を公刊し、「やさしい日本語」の全体像を伝える辞典も刊行した。また、論文や記事の執筆、講演やワークショップを通じ「やさしい日本語」の理念普及に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、第一に、JSL生徒を対象とする総合日本語教科書を3段階に分けて作成することにより、JSL生徒が中学校教科書を読めるようにすることにある。第二は、ろう児向け日本語教育の方法の確立と日本手話引き日本語基本語辞典の開発であり、これらの過程で日本語と日本手話の対照に基づく言語学的に有益な知見が得られることが期待される。本研究の社会的意義は、JSL生徒やろう児に対する「バイパスとしての「やさしい日本語」」の内実を豊かにすることを通して、彼/彼女らが日本語母語話者の子どもとの対等な競争を経て日本社会で自己実現でき、今後の日本に真の多文化共生社会が実現することを可能にすることにある。

研究成果の概要(英文)：Following are the results of the project. 1)publication of two integrated Japanese textbooks for JSL students, 2)publication of "web application of the expanding morphological analyzer UniDic-MeCab based on collocational and idiomatic expressions and compound words found in junior high school textbooks" on the website for the project, 3)publication of two papers on the recognitional style of the formal composition of Kanji characters by students from countries where no Kanji characters are used, 4)development of an interface for Japanese sign language-written Japanese dictionary. Furthermore, we successfully conducted two symposia, one of whose content we published in a book. We also published a dictionary which is aimed at making awareness in the members of the Japanese society about the overall concept of Yasashii-Nihongo covering all areas included in the concept. Moreover, we published papers and articles, gave some lectures aimed at disseminating knowledge on Yasashii-Nihongo.

研究分野：日本語教育

キーワード：やさしい日本語 JSL生徒 総合日本語教科書 ろう児 日本手話引き日本語基本語辞典 教科書コーパス 漢字シラバス ブレイン・ジャパニーズ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

それまでの2つの基盤研究を通して、JSL (Japanese as a Second Language) 生徒とろう児に関する問題には共通点があることがわかっていった。最大の共通点は両者が高校進学に際して問題を抱えていることである。JSL 生徒の高校進学率の公的な統計はないが、認定 NPO 法人による調査等から 30%程度と推定されている。ろう児に関しても同様である。こうした低学歴はその後の人生での貧困状態を招来する可能性が高いのみならず、その子ども世代の貧困の原因にもなり、社会的格差の固定化を招くことが日本人の子どもに関して指摘されているが、同様のことは JSL 生徒にも当てはまる。

貧困の連鎖は、JSL 生徒、ろう児においてより大きな問題の原因となる。JSL 生徒に関して言えば、彼/彼女たちが日本社会の中で「努力しても報われない」階級に囲い込まれる中で移民の受け入れが進むと、日本社会の中にその社会システムに強い不満を抱く外国人の集団を作ることになり、近い将来日本社会の大きな不安定要因になる懸念がある。一方、現在の定住外国人の犯罪率は日本人の犯罪率を大きく下回っている。これは、JSL 生徒が「努力すれば報われる」社会システムを作ることができれば、上述の懸念は逆転し、日本社会の持続的な発展への彼/彼女の貢献が大いに期待できることを示している。ろう児に関して言えば、ろう児が書記日本語を習得し、自らの力で自己実現することが可能になれば、障害者の経済的自立についての具体的なモデルが形作られることになる。

## 2. 研究の目的

以上の課題を言語的に解決するには、高校入学時、遅くとも高校卒業時に JSL 生徒とろう児が日本語能力において日本人生徒に追いつけることが必要であり、それには両者の高校進学率を飛躍的に高める必要がある。そのためには JSL 生徒およびろう児が中学教科書の内容を理解できることが必要であり、そのための教材開発が必要とされていた。

本研究ではこの目的達成のために ~ の3つの事業を行った。中学教科書のコーパスを作成し、それを文法、語彙、漢字の観点から分析した結果に基づく JSL 生徒の高校進学率を高めるための総合日本語教科書(以下、「教科書」と言う)を作成すること、ろう児に対する書記日本語教育のための基礎的教材としての「日本手話引き基本日本語辞典」の作成、年少者日本語教育(JSL 生徒とろう児対象)における「やさしい日本語」の有用性の普及である。

## 3. 研究の方法

に関しては、本研究で作成する教科書を Step1~3 の3段階に分けて考えた。Step1 に関しては、前科研(基盤研究(A):25244022(2013年度~2016年度)「やさしい日本語を用いた言語的少数者に対する言語保障の枠組み策定のための総合的研究」)期間内にその試用版を作成し、横浜市の市立中学校において試用を重ねてきた。本研究では、BICS (Basic Interpersonal Communication Skills) に相当する言語能力を対象とする Step1 レベルの教科書を完成させて出版し、それに引き続き、CALP (Cognitive Academic Language Proficiency) に相当する言語能力のうち、教科の違いによらないものを扱う Step2 を完成させて出版した。最後に、中学校教科書を読むために必要な言語能力の育成を目指す Step3 レベルの教科書の作成に着手した。

この3レベルのうち、特に Step3 に関しては、中学教科書をコーパス化しその内容の分析結果にそくして教科書を作成することが必要になる。本研究では、現在中学校で使われている5教科3学年分の教科書をコーパス化し、このコーパスを主に語彙と漢字の点から分析した。その結果にもとづき、語彙と漢字で優先的に学ぶべき順序を示す「語彙シラバス」「漢字シラバス」の策定を目指した。また、対象が年少者であることに鑑み、コンピューターゲームなどを含む CAI 教育を積極的に取り入れ、彼/彼女たちの理解を深めさせることを目指す。

に関しては、ろう児に対する書記日本語の文法教育を格助詞から開始してその問題点を検討する一方、日本手話の語彙分節の実相を解明するために、調査協力者安東、岡と、明晴学園の日本手話のネイティブ教師らと議論を重ね、日本語教育の観点から抽出した基本動詞について、日本手話におけるその表現原理を日本語と比較しながら考察した。こうした考察の結果、辞書の見出しの立て方を日本語の場合とはかなり異なる形で考えるべきことなどが明らかになった。また、当該辞書はろう児の手話を読み取って入力とするものだが、その場合の手形認識に関わる問題点などについても、システム開発者と連携しつつ考究した。

に関しては、複数回にわたってシンポジウムを開催し、その成果の一部を書籍や論文などとして公刊する一方、各種メディアの取材に応じてインタビュー記事や寄稿記事などを執筆したり、各地で講演やワークショップを開催したりするといった形で「やさしい日本語」の理念の普及に努めた。

## 4. 研究成果

本研究は、教科書班(志賀、ピアルケ、志村ゆかり(2020年度以降研究協力者))、コーパス班(宮部、庵、松下、田中)、CAI 班(豊田)、漢字教育班(早川、庵、研究協力者・本多由美子)

ろう児班（庵、研究協力者・岡典栄、安東明珠花）成果発信班（庵、イ）に分かれて研究を遂行し、全体を庵が統括する体制を取って遂行した。

まず、プロジェクト全体の成果発表としてのシンポジウムを2回開催した。1回目は「やさしい日本語 と多文化共生」と題して学習院女子大学で開催した（2018年2月17日、18日）。2回目は「やさしい日本語 とその関連領域」と題して一橋大学で開催した（2019年2月8日）。このうち、前者の成果の大部分については、『やさしい日本語 と多文化共生』（庵ほか編、ココ出版。2019年）において公刊した。

教科書班の成果としては、2冊の総合教科書の刊行が挙げられる。すなわち、『中学生のためのにほんご 学校生活編』『中学生のためのにほんご 社会生活編』（いずれもスリーエーネットワーク。2019年）である。また、CAI班は本教材に対応するe-learning教材の開発を進めており、その途中経過を志村・豊田・志賀・ビアルケ・永田・武・庵（2020）において発表した。

コーパス班の成果としては、中学校教科書コーパス（5教科×3学年×1出版社）の分析結果を踏まえ、長単位相当の語彙を実装した「形態素解析ウェブアプリ UniDic-MeCab 中学校教科書まとめ表現登録版」を作成し、本科研のHPで公開したことが挙げられる。また、関連する問題について、松下（2017, 2018）、宮部（2019, 2021）などにおいて論文として公刊した。

JSL生徒やろう児に対する日本語教育のあり方を考える「バイパスとしての「やさしい日本語」」を具体的に考察するためには、文法形式の運用に関するより深い認識が求められる。庵・張（2017）、庵・宮部（2017）、Iori（2017）はこうした問題意識の上で書かれたものであり、庵（2018）はそうした考察の集大成として位置づけられる。

漢字教育班の成果としては、次のようなものが挙げられる。庵（2018）は漢字教育の問題点を概観したもので、早川・庵（2020）は教科書コーパスの分析に基づく漢字の定量的分析結果、早川・本多・庵（2019, 2021）は、非漢字圏学習者に対する漢字教育の基礎データとして、漢字の字形認識の問題を扱ったものである。一方、松下・陳夢夏・王・陳林柯（2020）は漢字圏学習者にとっての「やさしい日本語」のあり方を考える上での基本データとしての価値を有する。

ろう児班の成果としては、次のようなものが挙げられる。まず、安東・岡・庵（2019）は明晴学園における格助詞を素材とする日本語教育の内容と成果を論文の形で公刊したものであり、安東・庵・岡（2019）は日本語手話と日本語における自他対応の表現方法を対照した内容を口頭発表したものである。日本手話引き日本語基本語辞典については、7語について安定的に手話の認識ができる段階までインターフェイスの開発が進んだ。この成果については、庵・玉田・増原・大塚・岡・森田・安東（2020）において口頭発表を行った。

成果発信班の成果としては、次のようなものが挙げられる。まず、イ（2017）、庵（2019）は本研究の全般に関わる問題を論文の形で述べたものである。一方、『「やさしい日本語」表現事典』（庵編、丸善出版。2020年）は本研究を含む「やさしい日本語」全体について、具体的な表現方法を中心にまとめたものである。

「やさしい日本語」の研究は非日本語母語話者に対する情報提供という側面から出発したため、ともすれば、日本語母語話者には関係ないものと認識されがちである。しかし、実際は、「やさしい日本語」の考え方は日本語母語話者の日本語運用能力の向上にとっても有益であるし、日本語表現全般に関わる論点を有している。庵（2018）はこの点を口頭発表で述べたものであり、庵（2021）はそれを論文の形で述べたものである。今後は、こうしたプレイン・ジャパニーズとしての「やさしい日本語」の可能性についても考察を進めていく必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 庵 功雄	4. 巻 348
2. 論文標題 外国人との対等な関係の構築へ必要とされる やさしい日本語	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journalism	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 早川杏子・庵 功雄	4. 巻 14
2. 論文標題 中学校教科書コーパスを用いた漢字音訓率の算定 英語教科書を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文・自然研究	6. 最初と最後の頁 108-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宮部真由美	4. 巻 10
2. 論文標題 トの分析からみた中学校数学教科書の日本語の難しさ 日本語学習者の教科学習における日本語の困難点とは	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語 / 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 117-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 豊田哲也・島田めぐみ・保坂敏子	4. 巻 22
2. 論文標題 Webテキストを用いた日本語学習問題自動生成システムの構築	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東アジア日本語教育・日本文化研究	6. 最初と最後の頁 127-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川杏子・本多由美子・庵 功雄	4. 巻 13
2. 論文標題 漢字教育改革のための基礎的研究 漢字字形の複雑さの定量化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文・自然研究	6. 最初と最後の頁 116-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安東明珠花・岡 典栄・庵 功雄	4. 巻 13
2. 論文標題 ろう児に対する書記日本語教育：格助詞の定着に向けた指導法の開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文・自然研究	6. 最初と最後の頁 132-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄	4. 巻 10
2. 論文標題 日本語教育における漢字教育に求められるもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ことばと文字	6. 最初と最後の頁 76-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川杏子・本多由美子・庵 功雄	4. 巻 11
2. 論文標題 JSL児童生徒に向けた教育漢字の字形認識を促す構成要素への分解の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JSL漢字学習研究会誌	6. 最初と最後の頁 101-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yeounsuk LEE	4. 巻 13
2. 論文標題 The Remaking of Salpuri Dance between Ritual and Art in Modern Korea	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語社会	6. 最初と最後の頁 406-422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下達彦	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語語彙習得に関する普遍性と個別性 漢字をめぐる問題を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第四回学習者コ パス・ワ クシヨップ&シンポジウム 第二言語習得における語彙の役割	6. 最初と最後の頁 48-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄	4. 巻 6
2. 論文標題 「は」と「が」の新しい捉え方についての一考察 「は」と「が」はこんなに簡単だった!	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 一橋日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄	4. 巻 54
2. 論文標題 新しい留学生向け総合教科書作成のための予備的考察: 初級文法項目を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 言語文化	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Isao Iori	4. 巻 58-1
2. 論文標題 Brief survey of functional differences between the topic marker wa and the subject marker ga in modern Japanese	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Hitotsubashi Journal of Arts and Sciences	6. 最初と最後の頁 15-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄	4. 巻 -
2. 論文標題 学習者コーパスを用いた誤用観察の一試案 格助詞「に」を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 庵功雄・杉村泰・建石始・中俣尚己・劉志偉編『中国語話者のための日本語教育文法を求めて』日中言語文化出版社 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄・張 志剛	4. 巻 -
2. 論文標題 第1章 正確で自然な立場の選び方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石黒圭編『現場に役立つ日本語教育研究3 わかりやすく書ける文法シラバス』くろしお出版 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄・宮部真由美	4. 巻 -
2. 論文標題 第2章 正確で自然な時間の示し方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石黒圭編『現場に役立つ日本語教育研究3 わかりやすく書ける文法シラバス』くろしお出版 (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄・宮部真由美	4. 巻 -
2. 論文標題 第4章 正確で自然な複文の組み立て方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 石黒圭編『現場に役立つ日本語教育研究3 わかりやすく書ける文法シラバス』くろしお出版(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊可欣・玉岡賀津雄・早川杏子	4. 巻 20
2. 論文標題 中国人日本語学習者の日中同形同義語の品詞性の習得 語彙知識・文法知識との因果関係	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第二言語としての日本語の習得研究	6. 最初と最後の頁 63-79
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 イ・ヨンスク	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語教育は誰のためのものか? 自己実現のための日本語教育をめざして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 川上郁雄編『公共日本語教育学』くろしお出版(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 51-70
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤尚子・田島ますみ・橋本美香・松下達彦・笹尾洋介	4. 巻 1
2. 論文標題 使用頻度に基づく日本語語彙サイズテストの開発: 50000語レベルまでの測定の試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉大学国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 松下達彦	4. 巻 19
2. 論文標題 語彙リストの利用法：コーパス分析に基づく語彙研究は何を目指すべきか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 専門日本語教育	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下達彦	4. 巻 13
2. 論文標題 日本語読解テキストのリライトの重要性とアプローチ：語彙的要素を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本言語文化研究会論集	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 庵 功雄	4. 巻 9
2. 論文標題 日本語表現にとって「やさしい日本語」が持つ意味 「難しさへの信仰」から脱するために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一橋日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 121-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯	4. 巻 177
2. 論文標題 日中対照漢字語データベースの開発と応用	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 62-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮部真由美	4. 巻 15
2. 論文標題 中学校数学教科書の内容理解における日本語の困難点 日本語を母語としない中学生の教科学習支援を目指して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文・自然研究	6. 最初と最後の頁 127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早川杏子・本多由美子・庵 功雄	4. 巻 15
2. 論文標題 非漢字圏日本語初級学習者を対象とした漢字字形認知に関わる予備的実験 漢字学習開始時と終了時における再認実験から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文・自然研究	6. 最初と最後の頁 141-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件(うち招待講演 4件/うち国際学会 7件)

1. 発表者名 安東明珠花・庵 功雄・岡 典栄
2. 発表標題 日本手話と日本語における自他の対応 対照言語学的研究に向けて
3. 学会等名 日本語言語学会第158回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 早川杏子・本多由美子・庵 功雄
2. 発表標題 非漢字圏学習者の漢字字形認知に関わる漢字の構造と構成要素 非漢字圏初級学習者に対する初見漢字の再認実験から
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志村ゆかり・志賀玲子・ピアルケ千咲・樋口万喜子・武一美・永田晶子・頼田敦子
2. 発表標題 外国につながるのある生徒を対象にした教科学習につなぐための日本語教材の開発 「教科につなぐ」とは何か
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮部真由美
2. 発表標題 中学校数学教科書に用いられている動詞の特徴 どのような難しさがあるのか
3. 学会等名 2019年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 豊田哲也
2. 発表標題 Webブラウザを介した学習者の語彙情報の獲得と語彙力測定の試み
3. 学会等名 8th International Conference on Computer Assisted Systems for Teaching & Learning Japanese (CASTEL/J 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庵 功雄
2. 発表標題 「国際日本語」としての やさしい日本語 「かわいい日本語に旅をさせる」ために
3. 学会等名 言語政策学会第20回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 庵 功雄
2. 発表標題 やさしい日本語 の諸相
3. 学会等名 The 15th International Conference on the Korean Language, Literature, and Culture (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 庵 功雄
2. 発表標題 やさしい日本語 と多文化共生のまちづくり
3. 学会等名 栃木国際交流協会設立30周年記念講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 早川杏子・本多由美子・庵 功雄
2. 発表標題 JSL児童生徒に向けた教育漢字の字形認識を促す構成要素への分解の試み
3. 学会等名 第78回JSL漢字学習研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 イ・ヨンスク
2. 発表標題 儀礼と近代的越境――東アジアを中心に
3. 学会等名 2018 Summer UBC International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 イ・ヨンスク
2. 発表標題 継承語からみた東アジアの言語的越境
3. 学会等名 One Asia Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松下達彦・佐藤尚子・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香
2. 発表標題 日本語学術共通語彙の習得 第一言語による違いに着目して
3. 学会等名 2018年日本語教育国際研究大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 庵 功雄
2. 発表標題 観光場面と やさしい日本語
3. 学会等名 日本言語政策学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 早川杏子
2. 発表標題 中国人日本語学習者を対象とした字順の異なる日中漢字語の認知処理 日本語母語話者との比較から
3. 学会等名 第二言語習得研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 志村ゆかり・志賀玲子・武 一美・樋口万喜子・宮部真由美・永田晶子
2. 発表標題 中学学齡期のJSL生徒を対象にした教科につなぐための日本語総合教科書の開発
3. 学会等名 日本語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮部真由美
2. 発表標題 中学校地理の教科書における述語形式と記述の内容 内容理解の支援のために
3. 学会等名 日本語教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 志村ゆかり・豊田哲也・志賀玲子・ピアルケ千咲・永田晶子・武 一美・庵 功雄
2. 発表標題 外国につながるのある生徒のための日本語e-learning環境の構築
3. 学会等名 NINJAL国際シンポジウム第11回日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ11) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 庵 功雄・玉田雅己・増原裕之・大塚 優・岡 典栄・森田 明・安東明珠花
2. 発表標題 ろう児のための日本手話引き日本語基本動詞辞典の開発
3. 学会等名 NINJAL国際シンポジウム第11回日本語実用言語学国際会議 (ICPLJ11) (国際学会)
4. 発表年 2020年

## 〔図書〕 計7件

1. 著者名 志村ゆかり編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 スリーエーネットワーク	5. 総ページ数 220
3. 書名 中学生のためのにほんご 学校生活編	

1. 著者名 志村ゆかり編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 スリーエーネットワーク	5. 総ページ数 151
3. 書名 中学生のにほんご 社会生活編	

1. 著者名 庵 功雄、岩田一成、佐藤琢三、柳田直美編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ココ出版	5. 総ページ数 391
3. 書名 <やさしい日本語>と多文化共生	

1. 著者名 庵 功雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 172
3. 書名 一歩進んだ日本語文法の教え方2	

1. 著者名 石澤 徹・岩下真澄・伊志嶺安博・桜木ともみ・松下達彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 語彙ドン！大学で学ぶためのことば Vol.1	

1. 著者名 庵 功雄	4. 発行年 2017年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 一歩進んだ日本語文法の教え方1	

1. 著者名 庵 功雄編著 志村ゆかり・志賀玲子・宮部真由美・岡 典栄著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 303
3. 書名 「やさしい日本語」表現事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「やさしい日本語」科研HP <a href="http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichi/">http://www4414uj.sakura.ne.jp/Yasanichi/</a> 庵 功雄のホームページ <a href="http://www12.plala.or.jp/isaoiori/">http://www12.plala.or.jp/isaoiori/</a> Ingenta Connect上の本研究の成果報告 <a href="https://doi.org/10.21820/23987073.2021.4.24">https://doi.org/10.21820/23987073.2021.4.24</a>
--



## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	イ ヨンスク  (Lee Yeounsuk)  (00232108)	一橋大学・大学院言語社会研究科・特任教授    (12613)	
研究分担者	松下 達彦  (Matsushita Tatsuhiko)  (00255259)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授    (12601)	
研究分担者	豊田 哲也  (Toyota Tetsuya)  (30650618)	東邦大学・理学部・講師    (32661)	
研究分担者	宮部 真由美  (Miyabe Mayumi)  (60823383)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・プロジェクトPDフェロー    (62618)	
研究分担者	早川 杏子  (Hayakawa Kyoko)  (80723543)	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化機構・特任講師    (12613)	
研究分担者	田中 牧郎  (Tanaka Makiro)  (90217076)	明治大学・国際日本学部・専任教授    (32682)	
研究分担者	ビアルケ 千咲  (Bialke Chisaki)  (70407188)	東京経済大学・全学共通教育センター・特任講師    (32649)	
研究分担者	志賀 玲子  (Shiga Reiko)  (30767695)	東京経済大学・全学共通教育センター・特任講師    (32649)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	志村 ゆかり  (Shimura Yukari)  (50748738)	関西学院大学・日本語教育センター・講師    (34504)	削除：2020年3月31日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	安東 明珠花  (Ando Asuka)		
研究協力者	岡 典栄  (Oka Norie)		
研究協力者	本多 由美子  (Honda Yumiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関